「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議　公開イベント

宮路外務副大臣挨拶

2025年4月

賢人会議委員の皆様

モゲリーニ学長

公開イベント御出席の皆様

「核兵器のない世界」に向けた国際賢人会議公開イベントに御出席いただき、ありがとうございます。こちらにいらっしゃる国際賢人会議の委員の皆様には、昨日まで提言の取りまとめに御尽力いただき、誠にありがとうございます。モゲリーニ学長におかれては、遠路はるばる来日いただき、政治リーダーとして議論に参画いただいていることに、心から御礼申し上げます。

御存じのとおり、今年は広島・長崎被爆80年という節目の年です。私はかつて約3年間広島市に出向したことがあり、8月6日の平和記念式典にも2回列席させていただきました。そうした経験を通して、被爆者の皆様やその御家族のみならず、広島と長崎にゆかりのある人々にとって、あの80年前の惨禍とその記憶を継承する営みがいかに特別な意味を持つものかを、身をもって知りました。

それ故に、被爆者の皆様をはじめ、市民社会の皆様が、この節目の時に、「核兵器のない世界」に向けた国際社会の歩みにもどかしさを覚え、厳しい安全保障環境と国際社会の地政学的変化に直面している多国間の核軍縮・軍備管理の行く末に不安や危機感を感じていらっしゃることも、よく分かります。

「核兵器のない世界」に向けた核軍縮の歩みを後退させることは、あってはなりません。そのためには、核兵器国と非核兵器国の双方が参加する対話と協調による枠組みを通じて、核兵器国を具体的な核軍縮措置に巻き込んでいくことが重要です。

我が国は、こうした考えから、「ヒロシマ・アクション・プラン」の下での取組をこれまで一つ一つ積み重ねてまいりました。この国際賢人会議を立ち上げたのも、その一環です。こうした現実的・実践的な取組を通じた「核兵器のない世界」に向けた道のりは長く、険しく、そして成果も見えづらいものですが、愚直に一歩一歩前進していくことでしか、実質的な進展は得られないのです。

来年は、核不拡散条約（NPT）運用検討会議が開催されます。我が国がNPTを批准して50年という節目でもあります。厳しい情勢を前に、唯一の戦争被爆国である我が国として改めて、「核兵器のない世界」に向けたこれまでの積み重ねを活かし、少しでも前に国際社会の歩みを進めるために先導的役割を果たすことが求められています。

私は、今月末から開催される、NPT運用検討会議第3回準備委員会の議長を務めるハロルド・アジマン国際連合ガーナ政府代表部常駐代表と昨年11月にお会いし、会議の成功に向けた最大限の協力をお約束しました。アジマン大使には広島・長崎にも御訪問いただき、被爆の実相にも触れていただきました。

我が国としては、賢人会議委員の皆様から頂いた提言をしっかり受け止め、これを活かしつつ、2026年の第11回NPT運用検討会議とその後の核軍縮・軍備管理のあり方を見据え、アジマン大使とも協力しつつ、NPTの運用検討プロセスを成功させることに注力する考えです。

最後に、昨年、日本被団協の皆様がノーベル平和賞を受賞されました。これは極めて意義深いことですが、同時に、被爆者の皆様の高齢化が一層進む中、大変寂しく、残念なことに直接の被爆体験を証言できる方々も年々少なくなっております。被爆当時の体験と記憶、そして長年の証言活動を含む核廃絶に向けた市民運動の経験を、世代と国境を越えて引き継ぐことが、喫緊の課題の一つともなっています。

幸いなことに、被爆者の皆様の志を引き継ぎ、若者らしい視点や技術を取り入れた活動に取り組む方々の輪が着実に広がりつつあることにも励まされます。この公開イベントにおける議論を通じ、ここにいらっしゃる皆様一人一人が、被爆の実相に加え、軍縮・軍備管理を巡って国際社会が直面する厳しい環境への理解を深め、「核兵器のない世界」に向けた市民社会の輪が広がることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

（了）